

## 第2章 調査結果の要約



## 1 定住性

### (1) 〈普段の買い物が便利である〉が約8割、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割強

ア 居住地域の評価については、全18項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈落書きが減少したと感じる〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉の5項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となっている。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一5割を超えており、区民の交通マナー意識の向上が求められる。

ウ 経年でみると、今回からの新設項目を除く16項目のうち10項目で肯定的評価が前回調査に比べて減少しており、「男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている」で減少が最も大きくなっている。

エ 肯定的評価が約8割と最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第6地域、第12地域、第7地域で9割前後と高い一方、第14地域、第2地域で5割台と低くなっている。

オ 肯定的評価が7割強と2番目に高い〈通勤や通学などの交通の便が良い〉は、第1地域で9割弱と最も高く、第14地域、第2地域で4割台半ばと低くなっており、他の項目に比べて地域差が最も大きい項目となっている。

### (2) 【暮らしやすい】は前年から微減したものの、【暮らしにくい】は1割超で過去最低

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は8割台半ばで前回同様の水準である。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域と第12地域で9割台と高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）を地域別にみると、第3地域と第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聞いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばで前回調査に引き続き最も高く、次いで「交通の便が悪いこと」が4割強、「買い物がしにくいこと」が3割台半ば近くと続いている。

### (3) 定住意向がある人はおおむね漸増傾向を続け、平成13年以降で最高値の前回を更新し8割

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、現行の選択肢になった平成13年以降で初めて8割台となった前回はさらに上回る結果となった。

イ 【定住意向】を地域別にみても、15地域すべてで7割台半ば以上と高くなっている。

### (4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉や〈交通の便が良い〉などの利便性や快適性と、〈落書きの減少〉・〈不法投棄の減少〉・〈ごみの減少〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっているものと考えられる。

イ 〈交通マナー〉、〈高齢者や障がいのある方への配慮〉、〈文化芸術に親しめるまち〉などの項目では否定的にとらえられている。

ウ 〈普段の買い物が便利〉、〈交通の便が良い〉、〈花や緑が多い〉、〈景観・街並みが良好〉については地域差がみられる。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

〈交通マナー〉、〈高齢者や障がいのある方への配慮〉、〈文化芸術に親しめるまち〉など否定的項目への取り組みを強化するとともに、地域差の減少化を推し進めることで、暮らしやすさの評価を向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は4人に3人の割合

- ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は72.0%であり、前回調査時から大きな変動はみられなかった。
- イ 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどを「特に用意していない」は、震災年（平成23年）と震災翌年（平成24年）に2割台前半だったが、震災3年目（平成25年）から令和元年まで3割前後と高くなった。その後は震災から10年というところで、マスコミ等に災害トピックスとして取り上げられる機会が増えたことの影響もあり再び2割台半ばまで戻ってきている。

### (2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割強）、「食料」（9割）

- ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割強、「食料」が9割、「あかり」が8割で上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「電池・予備バッテリー」、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」、「医薬品」で5割台、「簡易トイレ」、「防災袋」が3割台半ば近くの順となっている。
- イ 昨年度調査と比較して、順位と割合に大きな変化はみられないが、本設問を開始した平成25年時と比べると、「簡易トイレ」が15ポイント、「医薬品」が10ポイントそれぞれ増加している。
- ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上】で「水」、「食料」ともに4割台半ばとなっており、ともに前回の4割弱から約7ポイント増加している。
- エ 〈水や食料を特に用意していない〉と回答された方に災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回から5.5ポイント減少し、「区役所からもらう」が2.0ポイント増加した。また、性別にみると「考えていない」は女性より男性の方が6.0ポイント高くなっている。

### (3) 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしている【対策実施・多い】は3割弱

- ア 家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は3割弱で前回から微減となった。
- イ 家具類の転倒・落下・移動防止対策について住宅の形態別にみると、「一戸建て」に比べ「集合住宅」の方が約10ポイント低く、所有形態別では、「持家」に比べ「借家」の方が14ポイント低くなっている。
- ウ 全体の3分の2を占めている【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）の理由は、「面倒である」、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が3割弱で上位となっており、ともに前回から2～3ポイント増加している。
- エ 必要と考えられる今後の取り組み

家具類の転倒・落下・移動防止対策で「対策を行っていない」に絞ってみると、本設問を開始した平成23年以降で最低の割合（前回調査と同じく31.1%）になったとは言え、人命にも係わることを考えれば、対策を講じていない世帯が3割強というのは高いと考える必要がある。方向性としては、対策の実施率が低く、実施に制約がある「集合住宅」や「借家」において、万が一の際の被害を最小限にするため、危険度の高い家具から対策を講じていくことや、「面倒である」「方法が分からない」という人に対する対策事例の紹介やPRなどが必要と考える。

(4) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難場所】の2割強が最低

ア 前々回の令和2年調査から、3種の避難場所の<意味>と<場所>を聴取する形式に設問方法を変更したが、前々回からの3年間の認知割合に特に変動はみられない。また、それぞれの<場所>より<意味>の認知度が低くなっている点も変わらない。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

避難行動の流れと絡めて、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>の認知浸透度をさらに高めていく必要がある。

(5) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割弱、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」(48.6%)が5割弱で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」(26.1%)であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。

(6) 大地震の際の防災対策で区に力を入れてほしいこととして、「ライフラインやエネルギーの確保」と「衛生対策の充実」が約6割で1位と2位

ア 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「ライフラインやエネルギーの確保」(59.0%)、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(58.9%)、「水・食料の備蓄の充実」(56.4%)が約6割から5割台半ばで上位3位となっている。これらに続くのが「災害時医療体制の充実」(40.1%)、「避難所施設の設備などの充実」(38.7%)といった医療・設備の充実が続いている。

### 3 洪水対策

- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は5ポイント増加し9割ア「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」は33.3%で前回(28.7%)から4.6ポイント増加した。これに、「見て、内容は確認した」(23.9%)と「見たが、内容までは覚えていない」(32.9%)を合わせた【見たことがある】が90.1%となり、前回(84.5%)に比べて5.6ポイント増加となった。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

令和4年4月に「足立区洪水ハザードマップ」から「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」に改訂し、区内全戸配布を実施したことによる認知度増加の可能性が高いが、このマップの存在をより広く区民に周知して、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことが重要である。

- (2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は7割強で、そのうち6割台半ばが「自宅にとどまる」と回答

ア 河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所を事前に「決めている」人は7割強を占めているものの前回調査に比べ6ポイント減少した。

イ 決めている避難場所は、「自宅にとどまる(自宅内の高い階への移動を含む)」が6割台半ばを占め、次点の「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」の2割を大きく上回っている。

ウ 避難場所を事前に「決めていない」(24.4%)の主な理由は「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最も多く、次いで「近くに避難できる場所がないから」が2割弱となっている。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

河川のはん濫リスクは地域別で違いはあるものの、「避難する場所がわからないから」は半数の地域で5割を超えており、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」にも記載されている避難施設や分散避難についての認知度を向上させる必要がある。

- (3) 河川がはん濫して浸水被害になるような大洪水が迫っている際の情報で、「避難する」割合が高いのは、〈区から避難指示が発令〉が6割台半ば、〈自宅付近が浸水〉が6割

ア 河川がはん濫して浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の情報で、「避難する」の割合が高い順にみると、「区から避難指示が発令されたとき」が6割台半ばで最も高く、次いで「自宅付近が浸水したとき」が6割、「近所の人が避難をしているのを見たとき」が4割弱となっている。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

前回調査に比べて、6種の情報項目のすべてで「避難する」の割合が減少しているため、避難開始の適正なタイミングについての周知が必要である。

## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が6割台半ば、次いで「トキメキ」が約3割

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が6割台半ばで、依然として他の媒体に比べて高いものの、割合は漸減傾向にある。また、「あだち広報」以外にも多くの媒体で前回調査から割合が減少している。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

### (2) 重要と考える区の情報には、「健康や福祉」が6割、「災害や気象」が6割弱

ア 区が発信する情報で重要と考えるのは、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(60.2%)が6割で最も高く、次いで「災害や気象に関する情報」(58.6%)、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.5%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(46.2%)の順となっており、前回調査と比較して上位項目の順位に変動はない。

イ 重要と考える区の情報を性・年代別にみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性の60代以上と女性の50代で7割弱と高く、「災害や気象に関する情報」は男女とも50代60代で6割台と高くなっている。また、「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」は男女とも30代と40代で3割台と高く、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は女性の30代と40代で4割台と特に高くなっている。

### (3) 必要な時に必要とする区の情報には「得られている」が7割台半ば

ア 区の情報に「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が75.1%、一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は10.8%となっている。

イ 経年で見ると、前回調査から数値に大きな変化はないが、調査を開始した平成25年以降は、おおむね【得られている】が漸増、【得られない】が漸減傾向を続けており、区民が必要とする区の情報提供は着実に進んでいると言える。

ウ 必要な時に必要とする区の情報に【得られない】と答えた理由としては、「情報が探しにくい」(36.7%)と「情報の探し方がわからない」(23.5%)で6割を占めており、情報の探しやすさについて一層の工夫が必要である。

## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は4割強で最高値を更新

ア『あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が12.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(29.3%)を合わせた【知っている】は41.6%で、「知らない(初めて聞いた)」(54.9%)を下回っている。

イ キャッチフレーズの認知度を経年でみると、前回調査からの大きな変動はないが、平成30年以降は【知っている】は漸増、「知らない(初めて聞いた)」は漸減傾向となっており、【知っている】は最高値であった平成29年調査の40.0%を上回る結果となった。

ウ キャッチフレーズの認知度を性・年代別でみると、【知っている】は女性(47.5%)の方が男性(34.6%)より12.9ポイントと大きく上回っており、「内容まで知っている」に絞ってみると、女性の30代40代で2割台と他の性・年代層に比べて特になくなっている。

### (2) 糖尿病の進行による障がいでは知っているものは、「失明」が6割、「足の壊疽」が6割弱

ア 糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいでは知っているものは、「失明」が60.2%で最も高く、次いで「足の壊疽(えそ)」(58.2%)、「人工透析」(46.2%)、「口の渇き」(45.5%)などとなっている。

イ 前回調査との比較では、糖尿病の進行による障がいでは知っているものの順位と割合に大きな変動はみられない。

ウ 糖尿病の進行による障がいでは知っているものについて性別でみると、上位5項目のうち、「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」の3項目で女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

### (3) 野菜から「食べている」人は6割台半ば超えで変わらず

ア 糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われており、これに対し、「(野菜から)食べている」人は67.1%、また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】(「できている」+「だいたいできている」)は42.8%となっている。

イ 「(野菜から)食べている」人の割合、野菜の摂取量については、前回調査から数値に大きな変動はみられない。

ウ 性別でみると、「(野菜から)食べている」人は女性(70.1%)の方が男性(63.5%)より6.6ポイント高く、【(野菜の1日350g以上の摂取が)できている】も、女性(47.7%)の方が男性(37.0%)より10.7ポイント高くなっている。ほとんどの年代層で男性より女性の方が予防行動ができていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

### (4) 自分は「健康である」と自認している人は6割台半ば

ア 令和元年調査より4段階評定で聴取している「自身の健康状態」の結果をみると、「健康な方だと思う」が62.7%を占めており、「非常に健康だと思う」(4.3%)を合わせた【健康である】は6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)と感じている人は3割となっている。

イ 体調や習慣に関する項目について、平成25年から今回までを経年的にみると、「習慣的にたばこを吸っている」(22.9%→17.6%)は漸減傾向にあるが、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」(19.2%→26.4%)は漸増傾向となっている。



**(5) この一年間のがん検診の受診率は3割台半ば、種類別では「大腸がん検診」が5割弱**

- ア この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が37.0%で、「受けていない」が58.5%となっている。
- イ 性別にみると「(この一年間のがん検診を)受けた」は、女性(42.2%)が男性(31.0%)より11.2ポイント高くなっている。
- ウ 受診したがん検診の種類別では、「大腸がん検診」(49.0%)、「胃がん検診」(37.6%)、「乳がん検診」(36.3%)、「子宮頸がん検診」(32.6%)、「肺がん」(19.4%)などとなっている。
- エ この一年間のがん検診の受診状況を年代別にみると、女性では40代50代が5割台と高く、男性は年代が高いほど割合も高くなり70歳以上で4割台半ばを超えて高くなっている。

**(6) かかりつけ歯科医を「決めている」人は6割台半ば、うち「歯石除去・歯面清掃」は6割台半ば近くが実施、「定期健診(年1回以上)は4割台半ば超が実施**

- ア かかりつけ歯科医を「決めている」は64.5%で、性別でみると女性(68.5%)の方が男性(59.9%)より8.6ポイント高くなっている。
- イ かかりつけ歯科医を「決めている」人の割合は前回調査からは微増しているものの、令和元年に実施された東京都福祉保健基礎調査「都民の健康と医療に関する実態と意識」では、かかりつけ歯科医を「決めている」が70.8%であったことと比較すると、東京都全体に比べて本区は6.3ポイントほど低くなっている。

**(7) 感染症予防として手洗いを「毎日(毎回)行っている」人が5ポイント減少し8割台半ば**

- ア 帰宅時に感染症予防として手洗いを「毎日(毎回)行っている」が85.2%で、「ときどき行っている」(8.2%)を合わせた【行っている】は93.5%となっている。
- イ 前回調査と比べると、【行っている】は2.9ポイントの減少となっている。

**(8) 「ゲートキーパー」という言葉を「知らない(初めて聞いた)」が8割**

- ア 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が2.6%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が15.0%で、これらを合わせた【知っている】は17.6%となっている。
- イ 「ゲートキーパー」という言葉を【知っている】は、前回調査と比較して2.5ポイントの増加となっている。人々の孤独・孤立化については、国でも2021年に孤独・孤立対策担当室が設置されるなど、非常に注視されていることから、「ゲートキーパー」の認知率を向上させる取り組みが重要となっている。
- ウ 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況を性別にみると、【知っている】は男性(22.0%)の方が女性(14.1%)より7.9ポイント高くなっている。

## 6 スポーツ・読書

- (1) 「運動・スポーツはしていない」は4割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割で変わらず  
日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が20.3%で、  
以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は57.0%で、「運動・スポー  
ツはしていない」は39.1%となっており、前回調査と特に大きな違いはみられない。
- (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が4割台半ばで突出  
ア 【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果、「ウ  
ォーキング」が45.7%で最も高く、これに「筋力トレーニング」(21.3%)と「健康体操（エア  
ロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」(21.2%)が続いて上位となっている。  
イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の40  
代と70歳以上で5割台半ばと高くなっている。「筋力トレーニング」は男性の方が女性より約4  
ポイント以上高く、男性の18～29歳で4割台半ば近くと最も高い。「健康体操」は女性の方が男  
性より20ポイント近く高く、女性の18～29歳で4割強と最も高くなっている。  
ウ 運動・スポーツを最も多く行っている場所については、「自宅周辺」(43.5%)が最も高く、  
次いで「自宅」(18.7%)となっている。
- (3) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所でできる」が3割  
台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割弱  
ア 日常的に「運動・スポーツをしていない」人に、どのようなきっかけがあれば運動・スポー  
ツを行いたいと思うか聞いたところ、「身近な場所で運動・スポーツができる」(36.2%)、「手  
頃な価格で施設を利用できる」(28.9%)、「レベルを気にせず参加できる機会がある」(22.7%)  
が上位3項目となっている。  
イ 運動・スポーツを行うきっかけを性別でみると、前述の上位3項目については、男性より女  
性の方が高めとなっている。  
ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツがで  
きる」と「手頃な価格で施設を利用できる」の上位2項目は女性の30代で6割台と他の性・年  
代層に比べて高くなっている。
- (4) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動で、「活動しなかった」が7割台半ば、  
「活動したかったが、する機会がなかった」が7%  
過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動の有無を聞いたところ、「活動しなかった」  
が76.6%を占め、「活動したかったが、する機会がなかった」が7.1%、【何らかの支える活動を  
した】はわずか8.1%にとどまった。なお、「活動したかったが、する機会がなかった」理由は、  
「新型コロナウイルスの影響」が30.3%で最も高い結果であった。
- (5) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続するべき」が4割強  
区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度については、31.0%が【何ら  
かの制度改正を望んでいる】ものの、「現行のまま継続するべき」が43.3%で主流となっている。
- (6) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割台半ばで、「新聞を読む」が4ポイント減  
少し、代わって「本を読む」がトップに  
ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が82.3%を占めている。  
イ 行動内容としては、「新聞を読む」が4.2ポイント減少し2位に下降し、替わって「本を読む」  
(45.1%)が1位となった。次いで「雑誌を読む」(37.0%)、「漫画(アニメ)を読む」(31.3%)  
などとなっている。

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割超、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行ってない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が41.2%となっている。

イ 前回調査と比較すると、【知っている】は3.3ポイント減少しているものの、ここ10年間の推移をみると、平成26年調査からずっと4割台となっており、膠着状態に陥っている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みで【現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みがある】は25.8%で前回（29.9%）から4.1ポイント減少しており、5つの取り組みすべてで割合が減少している。

エ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに「参加していない（今後も参加しない）」は66.4%を占めている。

### (2) 「花のビュー坊プレート」の認知状況は3割強

『花のビュー坊プレート』の認知状況について、【知っている】（「すでに使用している」（2.7%）＋「見たことがあり、名称なども知っている」（6.0%）＋「見たことはあるが、名称などは知らなかった」（18.0%）＋「名称などは知っているが、見たことはない」（4.3%））でみると31.0%にとどまり、区民への認知浸透度は依然として伸び悩んでいる。

### (3) 治安が改善していることを「知っている」が4割強で、「知らない」が5割台半ば近く

ア 足立区内の刑法犯認知件数がピークだった平成13年と比較して1万件以上減少していることを「知っている」（42.9%）は4割強であった。

イ 「知っている」は平成30年以降漸増を続けていたが、今回調査では前回調査に比べて1.9ポイントの微減となった。

### (4) 居住地域の治安状況が【良い】は6割台半ばで最高値を更新し、【悪い】は平成23年調査開始以降で初めて2割を下回る

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が6割台半ばで、この5年間は毎回最高値を更新しており、本設問を開始した平成23年に比べて約25ポイント増加している。

イ 治安状況が【良い】について地域別にみると、7割台半ばと高い地域がある一方で、5割台と低い地域もあり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が46.6%で最も高くなっているものの、この項目は平成25年から漸減傾向が続いている。逆に「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」（23.3%）が前回調査に比べて3.9ポイント増加し、令和元年を頂点とした谷型で増加している。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」（43.6%）が最も高くなっている。

### (5) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

治安対策として足立区に特に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が51.9%で最も高く、次いで「安全に配慮した道路、公園の整備」（39.2%）、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」（38.4%）などと例年同様の結果となっている。

## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば、次いで「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば超え

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」(84.7%)が今回も最も高く、平成23年以降8割台半ばから9割弱の間で推移している。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(77.1%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(56.3%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(54.5%)、今回調査で新設された「外食時に食べられる分だけ注文する」(51.0%)までが上位5位となっている。

イ SDGsの認知度別にみると、上位8項目中5項目で認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。

ウ SDGsの関心度別にみると、上位8項目中6項目で関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。その度合いは認知度よりも関心度との相関関係が強く表れている。

### (2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が前回から4ポイント増加し8割弱

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が36.8%で、「行動することが時々ある」(41.3%)を合わせた【行動している】は前回調査から4.3ポイント増加し8割弱となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は女性の18~29歳、50代、60代で8割台半ばと高くなっている。

### (3) この1年間に参加した活動は、「特に参加していない・特にない」が5割強で変わらずも、今後参加したい活動としては軒並み増加

ア この1年間の活動への参加状況は、「特に参加していない・特にない」の51.0%に対し、【この1年間に参加した活動がある】は28.6%と大きく下回っている。

イ この1年間に参加した活動内容としては、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」が18.0%で最も高く、次いで、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(15.1%)となっている。

ウ 引き続き、または今後参加したいと思う活動としては、「特に参加していない・特にない」の37.8%に対し、【引き続き参加、または参加したい】が40.4%と上回り、現状の【この1年間に参加した活動がある】(28.6%)に比べて11.8ポイント高くなっている。

エ 引き続き、または今後参加したいと思う活動内容としては、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(現状15.1%→29.7%)が約3割、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」(現状18.0%→21.8%)が2割強、「講演会や講座、サークル活動など」(現状5.0%→15.0%)と「区内の文化施設や催しで親しむ機会」(現状3.5%→14.9%)がともに1割台半ばとそれぞれ増加している。

## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は2割台半ば、「知らない」が7割で変化なし  
 ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」(7.4%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(17.7%)）が25.1%となっており、前回調査からわずかに減少している。  
 イ 【知っている】を地域別で見ると、第10地域で3割台半ばと最も高く、次いで第3地域と第11地域が3割前後で続いている。  
 ウ 【知っている】を性・年代別で見ると、男女とも30代で他の年代層に比べて低くなっており、30代以下の年代層に向けて、事業認知度向上のための取り組みが必要である。
- (2) 「地域包括支援センター」を【知っている】は漸増が続き、初めて6割台  
 ア 「地域包括支援センター」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、業務内容もおおむね理解している」(27.6%) + 「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」(32.4%)）が60.0%と、本設問の開始以降漸増を続け、初めて6割台となった。  
 イ 【知っている】を地域別で見ると、第11地域、第3地域、第4地域で6割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。  
 ウ 【知っている】を性・年代別で見ると、女性の方が男性より約9ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の60代で7割台半ばを超えて高くなっている。
- (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は2割弱で、前回から微減  
 ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】（「積極的に協力したい」(1.6%) + 「負担にならない範囲で協力してもよい」(17.3%)）は18.9%で前回調査から微減した。  
 イ 【協力したい】を地域別で見ると、第12地域が3割弱で最も高く、第6地域と第4地域が2割台半ばで続いている。  
 ウ 【協力したい】を性・年代別で見ると、女性の方が男性より約4ポイント高く、男女ともに30代が1割弱と他の年代層に比べて低くなっており、30代以下の年代層に向けて事業認知度向上と活動への積極的な参加を促進する取り組みが必要と考える。  
 エ 協力意向がある活動内容としては、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」(51.0%)が半数で最も高く、次いで『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動(40.0%)、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」(30.3%)などとなっている。
- (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5割半ば近くで、漸増が続く  
 ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が16.0%で、これに「知っているが、特に何もしていない」(37.8%)を合わせた【知っている】(53.8%)は5割台半ば近くとなり、本質問を開始した令和2年から漸増を続けている。  
 イ 性・年代別にみると、【知っている】は女性の方が男性より9ポイント高く、女性の60代が7割強で最も高くなっている。
- (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食頻度は「毎食（1日3回）食べている」が2割  
 ア たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）の摂食頻度は、「毎食（1日3回）食べている」が20.6%にとどまり、最も高いのは「1日1回位食べている」(35.9%)となっている。  
 イ 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は、男性の60代が2割台半ばで最も高く、女性の40代が1割強で特に低くなっている。

## 第2章 調査結果の要約

### (6) 仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」が4割強、「取れていない」が2割台半ば近く

ア 仕事と仕事以外の生活の調和について、調和が「取れている」が41.7%で、「取れていない」(23.6%)を上回っている。一方、「わからない」が27.4%であった。

イ 調和が「取れている」を性・年代別でみると、男女とも18~29歳で5割台と高くなっている。

ウ 調和が「取れていない」は男性の30代で3割台半ば、男性の50代で3割強と他の性・年代層に比べて高くなっている。

### (7) 言葉の「内容まで知っている」は「身体的暴力以外のDV」(48.9%)、「LGBT」(47.1%)、「成年後見制度」(24.3%)

ア「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容はわからない」を合わせた【知っている】でみると、「身体的暴力以外のDV」が81.7%、「LGBT」が67.6%、「成年後見制度」が58.2%となっている。

イ【知っている】を性別にみると、「成年後見制度」は女性(60.7%)の方が男性(55.2%)より5.5ポイント高く、「身体的暴力以外のDV」も女性(83.2%)の方が男性(80.0%)より3.2ポイント高くなっている。また、「LGBT」は【知っている】における性別での傾向的な違いはみられない。

## 10 「協働・協創」・「SDGs」

### 「協働・協創」

- (1) 「協創」の認知度は平成29年から漸増傾向だったが、今回大幅に増加し3割弱に  
 「協創」について、「知っている」は9.1%で、これに「聞いたことはある」(19.6%)を合わせた【知っている】は28.7%で、前回(19.8%)から8.9ポイント大幅に増加した。
- (2) “協働”“協創”の実践は、「すでに、活動を実践している」が10ポイント減少し1割台半ば  
 ア 「協創」を知っていると回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」(15.0%)が前回調査(25.3%)から約10ポイント減少し、「関心はあるが、特に活動していない」(72.1%)が約9ポイント減少となった。  
 イ 「協創」の認知度アップは向上したものの、協働・協創の実践に至る方は少ない状況であるといえる。コロナ禍が実践に向けた環境に影響している可能性もあるが、その制限の中でどのような形で活動に結びつけられるかが重要である。
- (3) 協働や協創が進んでいると感じている人【**そう思う**】は2割台半ばで【**そう思わない**】を上回っているものの、「わからない」が5割  
 協働や協創が進んでいると感じるかについては、「**そう思う**」(4.0%)に「どちらかといえば**そう思う**」(22.4%)を合わせた【**そう思う**】が2割台半ばと前回調査から4.8ポイント増加し、無関心とも取れる「わからない」が4.5%減少している。

### 「SDGs」

- (4) SDGsの認知状況は「内容まで知っている」が3割弱で、「知らない」が2割台半ば  
 ア SDGsの認知については、「内容まで知っている」が28.0%となっている。「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が41.7%で最も高く、これらを合わせた【知っている】は約7割となっている。一方、「知らない」が24.6%となっている。  
 イ SDGsの認知度を性別でみると、「内容まで知っている」は、男性(31.3%)の方が女性(25.0%)より6.3ポイント高くなっている。  
 ウ SDGsの認知度を性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど割合が高くなり、男性の18~29歳(55.2%)が5割台半ばで最も高くなっている。
- (5) SDGsに【**関心がある**】が3割台半ば、【**関心がない**】が3割、  
 ア SDGsへの関心状況については、「**関心がある**」が30.7%で最も高く、これに「とても**関心がある**」(5.6%)を合わせた【**関心がある**】は3割台半ばとなっている。一方、SDGsに「あまり**関心がない**」(23.9%)と「全く**関心がない**」(6.9%)を合わせた【**関心がない**】は3割となる。また、「どちらともいえない」(26.8%)は2割台半ばとなっている。  
 イ SDGsへの関心状況を性別でみると、【**関心がある**】は、女性(37.7%)の方が男性(34.3%)より3.4ポイント高くなっている。  
 ウ SDGsへの関心状況を性・年代別でみると特徴的な傾向は見られないが、女性の50代で5割強と最も高くなっている。  
 エ マスコミ等で多く取り上げられていることもあり、【**知っている**】は7割弱であることに対し、【**関心がある**】は3割台半ばで認知度と関心度とが乖離している。「環境のために心がけていること」でも、SDGsの関心度との正の相関関係について触れたが、関心度をより高めることで様々な取り組みへの参加が期待できることから、関心度を向上させる取り組みが重要である。

## 11 区の取り組み

### (1) 「足立区に愛着」と「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」がともに7割

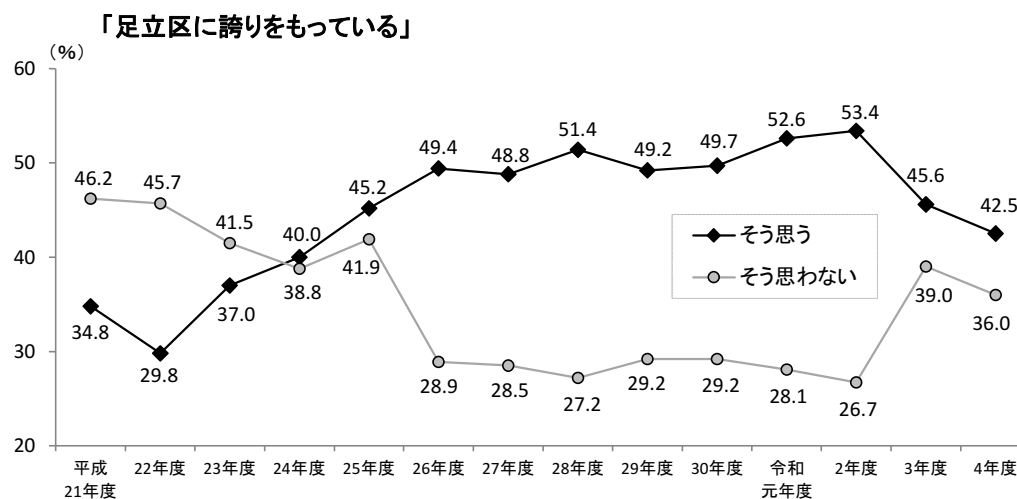
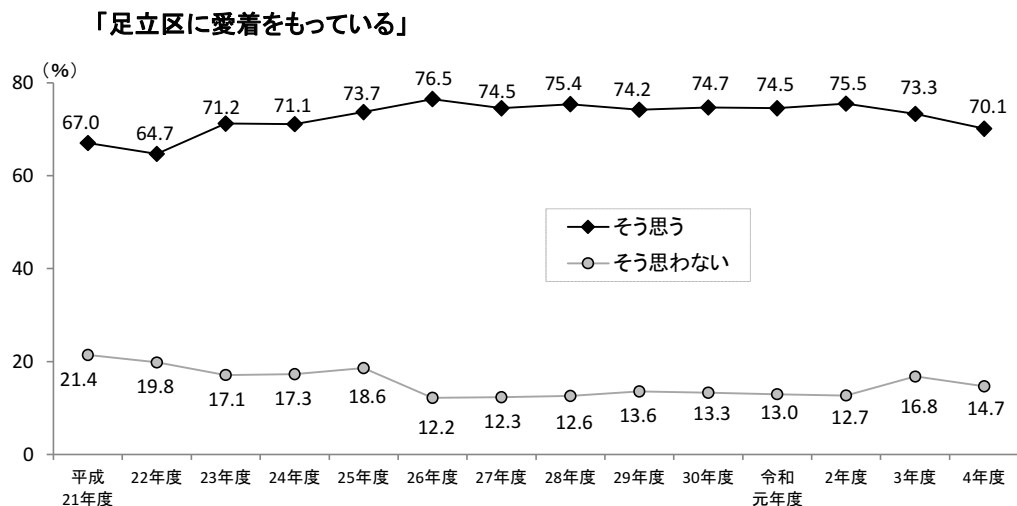
ア 平成21年調査から今回の令和4年調査まで14年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】(「**そう思う**」+「**どちらかといえば**そう思う****」)の比率で見ると、〈足立区に愛着をもっている〉は70.1%、〈足立区に誇りをもっている〉は42.5%、〈足立区を人に勧めたい〉は41.7%となっている。

イ 経年でみると、【**そう思う**】は前述の3項目とも前回から2～3ポイント減少している。

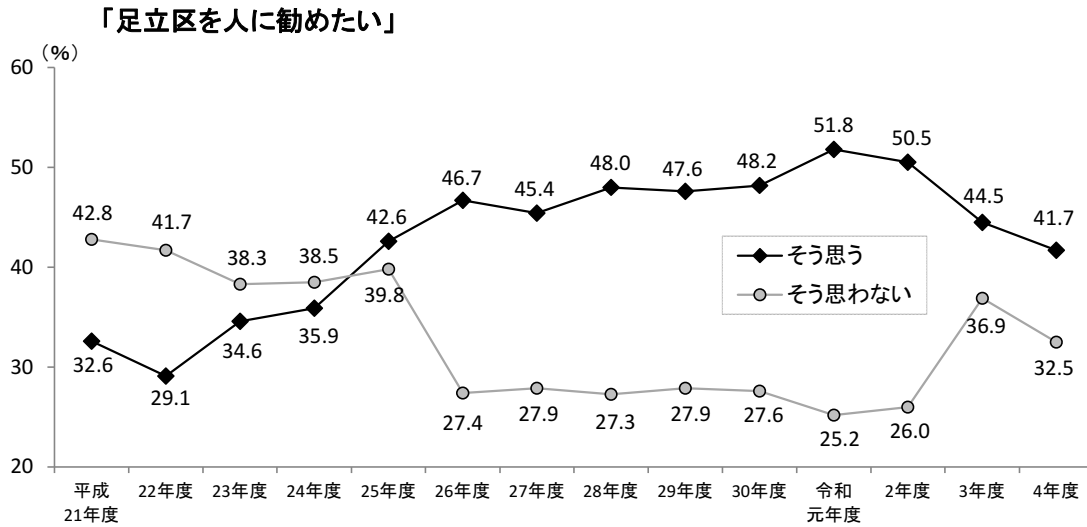
ウ 特に〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉の2項目を経年でみると、【**そう思わない**】も3～4ポイント減少し、両項目は14年間の推移が同様の傾向をみせており、「誇れるものがあるから人に勧められる」という強い正の相関にあると言える。

エ 3項目に共通していることとして、【**そう思う**】と【**そう思わない**】がともに減少しているが、それぞれの減少ポイントの和に比べて「わからない」の増加ポイントの方が大きくなっており、〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉で「わからない」は14年間で最高値となっている。

オ 今回の調査結果は前回同様に今までの経年傾向と異なった結果となっており、引き続き今後の推移を見守る必要があるが、居住年数と相応の相関があると考えられる〈愛着〉は別として、足立区民が自らの住むまちに〈誇り〉を持てるよう、区外からの評価やまちの魅力を向上させていく施策について研究を重ねていく必要があると考える。





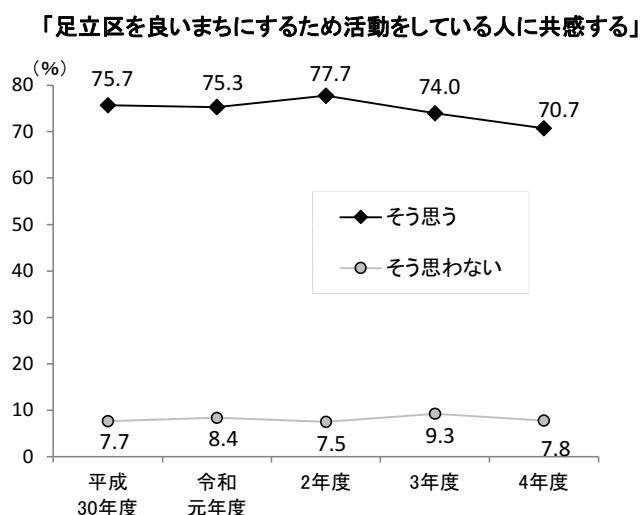
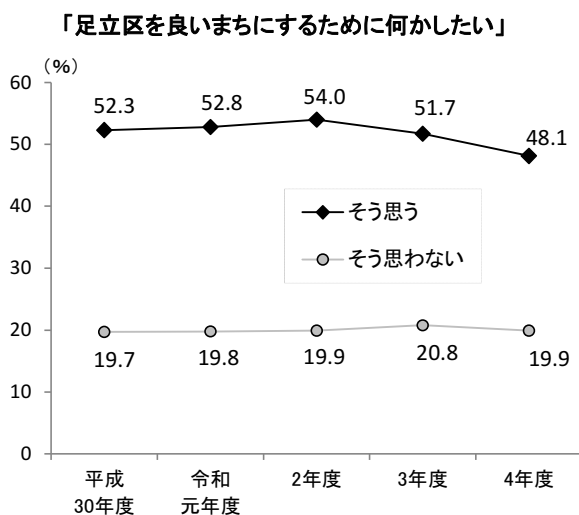


カ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【そう思う】をみると、それぞれ48.1%と70.7%で、ともに前回調査から3～4ポイント減少しており、【そう思う】もそれぞれ1～2ポイント減少している。

キ 前述の3項目同様、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉とともに「わからない」が増加しており、【そう思う】と【そう思わない】の減少ポイントの和に比べて「わからない」の増加ポイントがほぼ同様、又は大きくなっている。

ク 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について区政満足別にみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなっている。

ケ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉では【そう思う】は区政に満足している層が69.5%、区政に不満がある層で29.3%となっており、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では【そう思う】は区政に満足している層が83.1%、区政に不満がある層で56.1%となっている。特に、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉で区政に対する満足層と不満層で大きな差が出ており、区政に満足しているから、区を良くしたいという好循環が生まれていると考えられる。



## 第2章 調査結果の要約

### コ 区に対する気持ちの5項目と〈区政満足度〉との関係について

- (ア) 〈足立区に愛着をもっている〉、〈足立区に誇りをもっている〉、〈足立区を人に勧めたい〉、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の5項目で【**そう思う**】と回答している人は、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ大半を占めており、中でも、〈足立区を人に勧めたい〉で7割と最も高く、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では6割台半ばと高くなっている。
- (イ) 30ページでも触れたが、“誇りがもてる”と“人に勧めたい”は正の相関が強くあることから、この意識を啓発することが、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉という熱い思いを持つ区民を増やすことに繋がるものと考えられる。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
全 体		1,531	48.1	19.9
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1,073	60.3	15.9
	そう思わない(計)	225	28.4	52.0
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	650	67.2	10.3
	そう思わない(計)	551	41.9	39.9
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	638	70.5	11.6
	そう思わない(計)	497	39.6	40.8
足立区を良いまちにするための行動をしている人に共感する	そう思う(計)	1,082	65.2	16.5
	そう思わない(計)	120	15.0	81.7
区政満足度	満足(計)	1,043	52.4	18.2
	不満(計)	301	44.5	29.2

(件)

(%)

(%)

※濃いグレーの白字：全体に比べて10ポイント以上高い  
 ※薄いグレーの黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

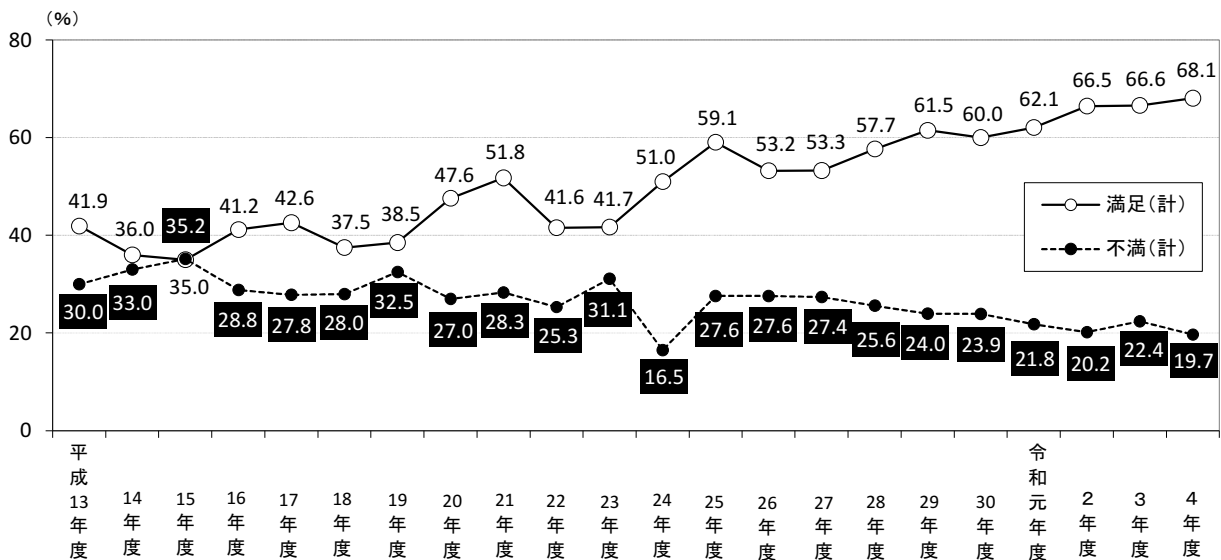
(2) 区政全体に対する【満足】はこれまでで最高の6割台半ば、【不満】は2割強

ア 定住性の評価で【暮らしやすい】(84.3%)は漸増傾向を続け、【定住意向】(80.3%)も高い割合で推移しているなか、区政全体に対する満足度も【満足層】(「満足」+「やや満足」)が68.1%と、選択肢の変更等があり、単純に比較はできないとは言え、本設問を開始した昭和53年以降で最も高い割合となっている。

イ 区の各分野に対する【不満】について年代別にみると、全世代では【満足】が高い分野(「子育て施策」「情報提供」「保健衛生対策」)でも若年層(18~39歳)は全世代に対して5ポイント以上【不満】に感じており、逆に全世代で【満足】が低い分野(「交通対策」「都市開発」「低所得者対策」等)では、40代・50代の【不満】が5ポイント以上高く、より【不満】に感じているといえるなど、さらに満足度を上げるためには、分野ごとにターゲットとする年代を見極める必要がある。

ウ 区の各分野への取り組みへの現状評価(満足度)と重要度の関係を数値化(算出方法の詳細は389頁を参照のこと)してみると、本区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価(満足度)が平均値より低い分野”として「交通対策」「防災対策」「障がい者支援」「学校教育対策」「高齢者支援」の5項目が該当した。これらの分野については、今後現状評価値を上げるべく、重点的に取り組む必要がある。

エ 重要度に対する現状評価の乖離度(「重要度の得点」-「現状評価の得点」)が大きい項目は、「交通対策」(2.42ポイント)、「防災対策」(2.21ポイント)、「治安対策」(2.06ポイント)、「住環境対策」(2.01ポイント)などであった。



※平成25年度以降は選択肢が現行の4選択肢(「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」)であるが、平成24年度までは「わからない」が加わった5選択肢のため、単純に比較はできないが参考として掲載している。

## 第2章 調査結果の要約

### (3) 今後の課題

重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）では平均値より低くなっている「交通対策」「防災対策」「障がい者支援」「学校教育対策」「高齢者支援」、及び重要度は平均値より低いものの現状評価との乖離度が大きい「住環境対策」については、今後も区の重点的課題として、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することが重要である。

重 要 度		満 足 度			
キ	治安対策	3.26	カ	資源環境対策	1.85
エ	防災対策	3.25	イ	職員の接客態度	1.84
ナ	交通対策	3.03	ア	情報提供	1.76
カ	資源環境対策	2.99	オ	自然・緑化対策	1.56
ス	子育て支援	2.87	ス	子育て支援	1.47
オ	自然・緑化対策	2.82	タ	保健衛生対策	1.45
ソ	障がい者支援	2.75	キ	治安対策	1.20
セ	高齢者支援	2.72	サ	生涯学習振興	1.19
ア	情報提供	2.69	セ	高齢者支援	1.15
タ	保健衛生対策	2.69	シ	学校教育対策	1.13
シ	学校教育対策	2.68	ソ	障がい者支援	1.10
イ	職員の接客態度	2.63	ク	地域活動支援	1.07
ト	住環境対策	2.49	ケ	社会参加支援	1.05
テ	都市開発	2.46	エ	防災対策	1.04
ウ	ICT活用	2.31	テ	都市開発	0.91
チ	低所得者対策	2.25	コ	男女共同参画推進	0.91
ツ	産業振興	2.14	ウ	ICT活用	0.90
サ	生涯学習振興	2.03	ツ	産業振興	0.90
ク	地域活動支援	2.00	チ	低所得者対策	0.74
コ	男女共同参画推進	1.87	ナ	交通対策	0.61
ケ	社会参加支援	1.64	ト	住環境対策	0.48
区 全 体		2.55	ニ	区全体として	1.27
			区 全 体	1.16	



## 区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

### 1 足立区に愛着をもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	68.1	55.2
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7		
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4
70歳以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	67.5	54.3
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3		
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5
70歳以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7

### 2 足立区に誇りをもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	43.1	23.9
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8		
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9
70歳以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	28.9	31.4
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7		
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5
70歳以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0

### 3 足立区を人に勧めたい

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	40.3	34.3
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4		
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6
70歳以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	38.6	40.0
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7		
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6
70歳以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4

第2章 調査結果の要約

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3
20代	45.8	39.1	44.1		
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4
20代	41.6	39.4	41.3		
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

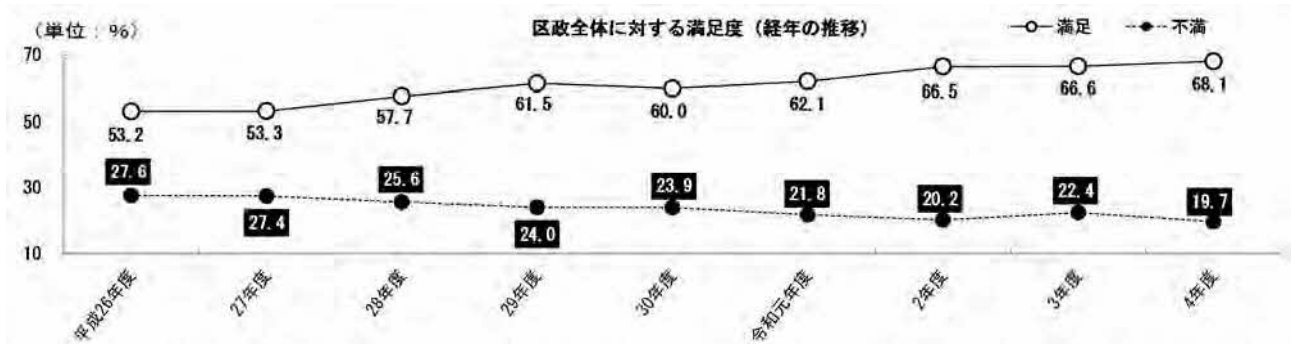
全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7
20代	64.4	59.4	67.8		
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6
20代	61.0	66.7	66.3		
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3

区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安



1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	6.3	17.8	1.9	0.3	2.7
どちらかといえば暮らしやすい	3.1	33.6	10.1	1.4	7.1
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	4.7	4.2	0.7	1.0
暮らしにくい	0.1	0.4	0.5	0.3	0.1

2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住み続けたい	5.6	20.5	3.7	0.4	5.0
当分は住み続けたい	3.3	29.1	7.4	1.3	4.1
区外に転出したい	0.3	2.1	2.2	0.5	0.4
わからない	0.7	5.4	3.5	0.4	1.8

3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
十分に得られている	2.4	2.8	0.4	0.0	0.4
ある程度得られている	6.3	44.5	11.1	1.1	6.1
得られないことが多い	0.3	4.3	2.6	0.7	1.5
まったく得られない	0.2	0.5	0.5	0.0	0.3
必要と思ったことがない	0.5	3.2	0.9	0.5	0.7
区の情報に関心がない	0.3	1.6	1.0	0.3	0.5

4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	2.9	6.3	0.5	0.3	1.1
どちらかと言えば良い	5.6	35.6	6.7	1.0	4.6
どちらかと言えば悪い	0.7	8.4	6.3	0.8	1.3
悪い	0.0	0.8	0.9	0.4	0.3
わからない	0.7	5.7	2.2	0.3	2.3

